

※令和7年3月23日13時～14時 正和幼稚園にて対面実施（保護者3名・地域住民/自治会長・評議員・大学関係者）

## 1. 園の教育目標

1. それぞれのいのちを、こころ、からだ、自然から感じ取り大切にします。
2. 居心地のよい、安心できるこの場所で、「私は、私である」ことを実感します。
3. 社会の一員として、つながりあい、影響をあたえあいます。
4. 相手の思いを聴き入り、自分の想いも伝えます。
5. 試して、工夫して、つくりだす経験をします。自分なりに納得するまで探究します。

## 2. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画

2025年度正和幼稚園の存在意義は、「こどもの日々のくらしをまんやかに地域のいちぶとなり続ける。」です。

### ◎多文化共生社会の空間づくり設計

#### ①多様なくらしを受容し、多角度からのアプローチを持続する

- ・多様なくらしの理解促進
- ・多文化共生ダイバーシティ保育の実践

#### ②多様な食文化に触れる機会をつくる

- ・多様な食文化理解促進
- ・多文化共生ダイバーシティ食育の実践

#### ③多文化共生空間づくりの実現

- ・誰でもが溶け込んだ空間づくり

### ◎地域と共に居場所づくり

#### ①地域の福祉ニーズに基づいた、子育て支援事業の充実

- ・誰でも使える施設利用の機会を増やす

#### ②アウトリーチ型子育て支援事業の内容充実

- ・地域活動の関係人口を増やす

#### ③地域活動の関係人口を増やす

- ・山崎高校との連携を深め、活動内容を対外的に発信し、さらに関係人口を増やしていく

#### ④伴走型子育て支援への貢献と一時保育利用の受け入れ機会を増やす

- ・地域の子育てパートナーとして気軽に園の一時保育利用をしやすい仕組みを作る

### ◎園内環境の活用・活動の充実

#### ①STEAM教育の充実

- ・STEAM教育の促進

#### ②田んぼビオトープの活動充実・発信

- ・園庭の田んぼビオトープにて、米の一年の流れや生き物への関心を高める。

#### ③昔から伝わっている日本独自の文化、伝統の体験を通じた理解促進

- ・地域・日本の伝統を深め、体験する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
1①多文化共生社会の空間づくり設計	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食を通じた「スパイス」や「世界の料理（ルーローハン等）」への取り組みが、園内だけでなく家庭での世界地図への興味や多文化への理解に繋がっている。</li> <li>・オンラインでの海外交流などを通じ、子どもたちが「外の世界」に自然と目を向ける環境ができています。</li> <li>・インクルーシブ教育において、子どもたちが互いの違いを自然に受け入れ、トラブルも学びの機会として捉える「共生」の土壌が育っている。</li> </ul>
2 地域と共に居場所づくり	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ころころひろば」や「ゆったりラウンジ」など、未就園児家庭への支援事業は継続して行われ、登録者数も120名を超えている。</li> <li>一方で、情報発信（PR）に課題があり、地域住民や転入者に園の存在や取り組みが十分に周知されていない。SNSの活用方法や、学園全体ではなく園単体での発信強化が必要とされている。</li> </ul>
3 園内環境の活用・活動の充実	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・STEAM教育の一環として、とうきょうすくわくプログラムで、5歳児を中心にティピの修繕プロジェクトを実施。子どもたちの「空が見たい」「窓をつけたい」といった意見を形にした。</li> <li>・田んぼやピオトープ、蚕（カイコ）の飼育、漬物作りといった、日本独自の文化や自然に触れる体験が非常に充実している。</li> <li>・泥遊びやペンキ塗りなど、家庭では難しいダイナミックな体験が保護者からも高く評価されている。</li> </ul>

※結果について

5	十分達成されている
4	達成されている
3	取り組まれているが、成果が十分ではない
2	取組が不十分である
1	取り組んでいない

#### 4. 自己評価で設定した目標・計画・評価項目の設定は適切であったか

適切であった。

理由は、設定した重点項目（多文化、地域連携、環境活用）が、実際の保育実践（スパイスプロジェクトやインクルーシブ保育など）と密接に結びついており、子供たちの成長として目に見える成果が出ているため。

専門家（織物の先生、安全管理の先生など）を招く計画も着実に実行されており、活動の質が担保されている。

#### 5. 自己評価の結果の内容は適切であったか

適切であった。

理由は、インクルーシブ保育の広がり、STEAM教育の成果を認める一方で、課題（地域への発信不足、安全管理の更なる強化）についても率直に議論されている。

保護者アンケートの結果を真摯に受け止め、評価理由として反映させている。

#### 6. 自己評価に対して今年度取り組むべき課題は適切に行われているか

適切に行われている。

理由は、STEAM教育において、単に物を作るだけでなく、子どもたちの意思決定を尊重するプロセスが踏まれている。

日本の伝統文化体験（蚕の糸紡ぎや餅つき、田植え等）が、地域の協力者や学生ボランティアを巻き込みながら継続的に実施された。

情報発信についても、コーディネーターを中心にチラシ作成やSNS発信の分担など、改善に向けた具体的な動きが見られた。

#### 7. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

適切に設定されている。

理由は、安全管理の強化：昨今の社会情勢を踏まえ、プライベートゾーンの意識（トイレや着替えの環境改善）や、最新の防災・安全基準への更新を掲げている。

情報共有の質向上：園内での「ルール（約束）」が保護者に伝わっていないことによる誤解（給食のおかわりのルール等）を解消するため、より丁寧な情報開示を目指している。

継続的な地域連携：ユネスコスクールとしての活動や、近隣高校・大学との交流をさらに深化させる計画となっている。

※2026年度の重点項目

◎多文化共生社会の空間づくり設計

①多様なくらしを受容し、多角度からのアプローチを持続する

- ・多様なくらしの理解促進(食・住・文化への意識向上・海外とのオンライン・ワールドカフェ)
- ・多文化共生ダイバーシティ保育の実践 (STEAM教育の実践)

②多様な食文化に触れる機会をつくる

- ・多様な食文化理解促進 (さまざまな食文化に触れる機会をもつ)
- ・多文化共生ダイバーシティ食育の実践 (和菓子WS等・地域や保護者が主となる世界の料理)

③多文化共生空間づくりの実現

- ・誰でもが溶け込んだ空間づくり (園児LaMano施設見学+LaMano利用者に来園していただき織り機の経糸張りなど)

◎地域と共に居場所づくり

①地域の福祉ニーズに基づいた、子育て支援事業の充実

- ・誰でも使える施設利用の機会を増やす (園庭開放月～金・親子未就園児遊び会週1・駅前ラウンジ週3・マイ保育園登録・SNS発信)

②アウトリーチ型子育て支援事業の内容充実

- ・地域活動の関係人口を増やす (地域共創/冒険遊び場・BBQ/子ども食堂)

③地域活動の関係人口を増やす

- ・山崎高校との連携を深め、活動内容を対外的に発信し、さらに関係人口を増やしていく

④伴走型子育て支援への貢献と一時保育利用の受け入れ機会を増やす (一般型一時保育・学童一時保育)

◎安全管理体制の見直し・強化

①プライベートゾーンに関する環境の強化

- ・プライベートゾーンについて、子どもも大人も意識を高める仕組みづくりをし、環境をより良くする

②見守りカードの改訂

- ・新しい見守りカードの完成と運用

③保育室のテーブル等作成

- ・保育室内のテーブルを活動と合わせて新調する